

布引だより



令和3年12月3日

No.8



布引小学校ブログもご覧ください→

<http://www2.higashiomi.ed.jp/nunosyo/>

～ 一人ひとりがキラリ輝く布引の子 ～

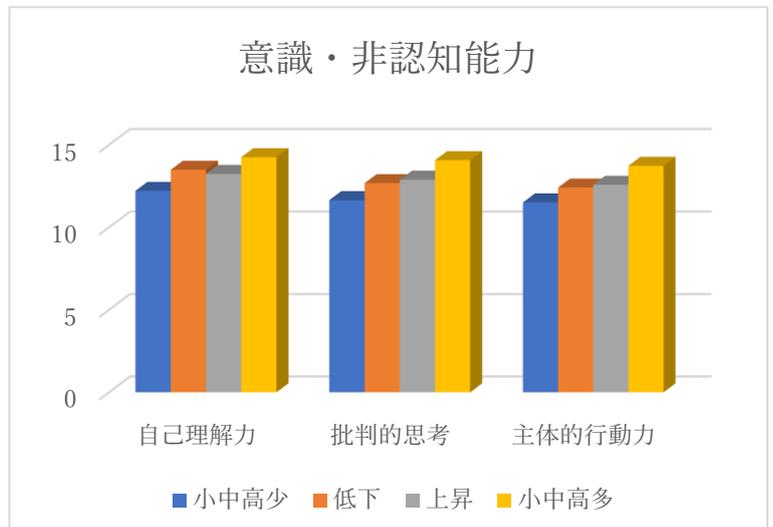
読書で培われる力

長かった2学期も終わりに近づいています。以前、新井白石の話を書きましたが、これは「読書」についても言えることです。全国学力学習調査のアンケートから、本校の読書時間は全国と比べても長いという結果でした。これは読書ボランティアの皆様の読み聞かせ活動や、ご家庭でご協力いただいているノーテレビノーゲームデーの取組の賜物と思います。読書量を増やすことは「読む力」「読み取る力」を伸ばすことだと考えがちですが、それだけではないことが、「国立青少年教育振興機構」の調査からわかりました。ここでは、調査の対象を4つのグループに分けています。

- ① **小中高少**・・・小学校から高校まで読書量が少ない。
- ② **低下**・・・小学校から高校にかけて読書量が低下している。
- ③ **上昇**・・・小学校から高校にかけて読書量が徐々に増えている。
- ④ **小中高多**・・・小学校から高校にかけて読書量が多い。

調査テストの獲得ポイント(詳しくは国立青少年教育振興機構のHPを確認ください)で比べています

が、小学校から読書量が多いと、「自己理解力」「批判的思考」「主体的行動力」も高くなる傾向があることがわかります。また、小学校から高校にかけて読書



自己理解力:「今の自分が好きだ」「自分には自分らしさがある」など自己肯定感
批判的思考:「物事を順序だてて考えるのが好き」など客観的、多面的、論理的に考える力
主体的行動力:「わからないことはそのままにしないで調べる」など進んで取り組む姿勢。



量が低下していくよりも、小学校のときは少なくとも徐々に読書量が増えていった方が良い結果になっています。

「興味・関心にあわせた読書経験が多い人ほど、小中高を通した読書量が多い傾向にある」こともわかったそうです。ということは、1日に読むページのノルマを決めて読んだり、作者から本を選んで読んだり、学校などの推薦図書を読んだりすることは、読書量を減らすことにつながりかねないということです。逆に、ジャンルを決めず読んだり、同じ本を繰り返し読んだり、本を持ち歩いて読

んだり、地域の図書館で借りて読んだりすることは読書量の増加につながります。絵本を読んだことがある人は読書量が多いこともわかっています。学校やご家庭で取り組んでいる読書の取組がこれから生きていく上での重要な力となることが再確認できました。今後ともご協力をよろしくお願いいたします。

国立青少年教育振興機構(読書活動の調査研究報告)

http://www.niye.go.jp/kenkyu_houkoku/

